

## 佐賀の果樹10月号(病虫害防除)

<果樹類共通>

### 果樹カメムシ類

今年はカメムシ類の発生が多く、10月の気温も平年より高めと予想されているため、遅くまでカメムシが活動して果樹園へ飛来し、果実を加害する恐れがあります。園内の様子を観察し、カメムシ類の飛来を確認したら早急に防除を行ってください。

飛来状況は園によって大きく異なりますが、カメムシ類の発生（誘殺）状況等は農業技術防除センターのホームページに掲載されていますので、参考にしてください。

<露地カンキツ>

### 果実腐敗（緑かび病等）

果実腐敗を防ぐには、まずは果実に傷をつけないことが最も重要です。果実は丁寧に取り扱いってください。

薬剤は、収穫7～10日前に① [ベンレート水和剤4,000倍とベフラン液剤25 2,000倍の混用]、② [トップジンM水和剤2,000倍とベフラン液剤25 2,000倍の混用]、③ [ベフトップジンフロアブル1,500倍]の中から一つを選び、散布します。①又は②を選択した場合は、トップジンM水和剤またはベンレート水和剤を先に溶かし、ベフラン液剤25を後で溶かしてください。逆の順番で溶かすと、沈殿を生じてしまいます。

薬液が霧状になるノズルを使って果実一つ一つを薬液で包み込むように丁寧に散布してください。

### 褐色腐敗病対策

11月頃までは発生が認められるため、注意が必要です。枝つりを実施して土壌中の菌が雨滴の跳ね返りなどで果実に付着しないようにするとともに、発病した果実は早急に除去し、園外で土中に埋めるなど適切に処分してください。本病が問題となる園で収穫までの期間が長い場合にはジマンダイセン（ペンコゼブ）水和剤（温州ミカンには400倍で収穫30日前まで、その他のカンキツ類では600倍で収穫90日前まで）またはクレフノン200倍加用リドミル銅水和剤750倍（温州ミカンには収穫14日前まで、その他のカンキツ類は使用不可）を散布します。ただし、ジマンダイセン水和剤の使用回数は4回以内となっているため、黒点病の防除に複数回使用している場合には回数を超過しないように注意してください。収穫までの日数が短い場合には、アリエッティ水和剤400倍やランマンフロアブル2,000倍、レーバスフロアブル2,000倍（いずれも収穫前日まで使用可）のいずれかを

散布してください。なお、アリエッティ水和剤を高温時に散布すると日焼け果の発生を助長する場合がありますので高温時には使用しないようにしてください。

### アザミウマ類

今年のように8月以降に高温乾燥が続いた年は、アザミウマ類(特にハナアザミウマ類)による着色期以降の果実被害が多発する恐れがあります。果実と果実、果実と葉が接している部分などに多く寄生して加害しますので、そのような場所での被害を確認したら早急にスピノエースフロアブル4,000倍(収穫7日前まで使用可)やハチハチフロアブル2,000倍(収穫前日まで使用可)等を散布してください。

### ミカンハダニ・ミカンサビダニ

10月上旬まではコロマイト水和剤2,000倍(収穫7日前まで使用可)、カネマイトフロアブル1,000倍(収穫7日前まで使用可)、バロックフロアブル2,000倍(温州ミカンでは収穫前日まで使用可、その他のカンキツ類では収穫14日前まで使用可)などで対応します。低密度時に防除を行ってください。殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、去年や今年使用した薬剤は使用しないで下さい。10月中旬以降はオマイト水和剤750倍(温州ミカンでは収穫7日前まで使用可、その他カンキツ類では収穫14日前まで使用可)を散布します。散布むらがないように、丁寧に散布して下さい。

近年、10～11月頃にミカンサビダニによる被害が多発することが増えてきました。気温が高く雨が少ない年には遅い時期までミカンサビダニの被害が発生する恐れがあるため、園内や周囲の園でミカンサビダニによる新たな被害の発生を確認したら、早急に防除を行ってください。

### ウスカワマイマイ・チャコウラナメクジ

発生初期にスラゴを株元等に1～5g/m<sup>2</sup>配置して対応しますが、樹上での発生が見られる園ではI C ボルドー66D 100倍を散布します。果実の汚れが気になる場合はマイキラ200倍(収穫30日前まで使用可)を使用します。ただし、I C ボルドー66Dのように長期間の効果は期待できませんので、注意して下さい。

<不知火>

### 汚れ果症

10月中旬までは防除が必要です。収穫まで90日以上の間がある場合は、ジマンダイセン(ペンコゼブ)水和剤600倍で対応します。ただし、マンゼブの使用回数は4回までとなっていますので、黒点病の防除等ですでに4回使っている場合は使用できません。このような場合や収穫までの期間が90日より短い場合は、ダイマジン1,500倍で対応します。収穫14日前まで使用可能です。本剤は2回まで使用できますが、果実腐敗対策として使用するベフラン液剤25と同じイミノクタジン系の有効成分を含み、成分の総使用回数は2回以内となっています。収穫前に

ペフラン液剤を使用するので、回数が超過しないよう、ダイマジンの使用は年1回以内にして下さい。

<ナシ>

### 黒星病(秋季防除)

翌年の発生源となる鱗片への感染を防ぐため、必ずデランフロアブル1,000倍、キノンドーフロアブル1,000倍、オーソサイド水和剤1,000倍のいずれかを散布むらのないよう、丁寧に散布してください。詳細は今月の特集記事P〇～〇を参照してください。

<ブドウ>

### ブドウトラカミキリ

卵の孵化～枝内への幼虫食入期である10月上中旬にモスピラン水溶剤2,000倍を散布します。この時期に散布できなかった場合や山間部等の発生が多い園では、休眠期（落葉後、ただし遅くとも11月上旬まで）にトラサイドA乳剤200倍にプラテン80 800倍を加えて散布します。散布むらのないよう丁寧に散布して下さい。

<モモ、スモモ>

### せん孔細菌病(モモ)・黒斑病(スモモ)

秋季の感染を防ぐため、10月上旬までに薬剤を散布します。モモはICボルドー66D 50倍もしくはICボルドー412 30倍を散布します。スモモはICボルドー412 30倍を散布します。特に台風の襲来など強風雨の場合に感染が助長されるため、襲来前の防除を徹底してください。

<カキ>

### フジコナカイガラムシ

フジコナカイガラムシが発生している園では、モスピラン水溶剤2,000倍(収穫前日まで)を散布して下さい。薬液がかかりにくい果実とへたの間などに寄生していますので、丁寧に散布して下さい。